

株式会社MBSラジオ  
代表取締役社長 浜田尊弘 様

## 抗議・要請書

わたしたちは、2023年4月1日の「『MBSラジオでの上念氏の発言を許さない!』緊急オンライン集会」に参加した団体/個人です。

わたしたちは、以下(1)～(5)のすべてが、朝鮮学校に対する無理解と偏見にもとづく差別言動であり、また朝鮮学校の名誉を棄損するものであり、さらにヘイトクライムを誘発しかねない極めて危険なメッセージを含んでいると考えます。貴社の行為を到底認めることはできません。ここに強く抗議します。

(1) 2023年2月21日に貴社のラジオ番組『上泉雄一のええなぁ!』のゲストであった上念司氏が生放送でおこなった発言

(2) 貴社が在日本朝鮮人人権協会の質問状に回答した2023年3月14日付の文章

(3) 2023年3月17日の貴社の番組改編記者発表でコンテンツデザイン局長の有貞直明氏が説明した見解(2023年3月17日17:19毎日新聞配信記事を参照しました。)

(4) 2023年3月23日にTwitterにて貴社が発表した上念氏発言に対する貴社の立場

(5) 2023年3月24日に貴社が当事者との面談で述べた見解(2023年3月24日19:47毎日新聞配信記事、ほか朝日新聞、東京新聞などの記事を参照しました。)

貴社が本件について取った対応は次の通りです。

- ① 2023年3月10日、当該番組の冒頭で「お詫び」を放送した
- ② 同日、貴社ホームページに「お詫び」を掲載し、その日のうちに削除した
- ③ 同日、貴社のネット配信から2月21日の上念氏の発言のうち「スパイ養成的などころもあつたりとか」という部分を削除した
- ④ 2023年3月16日夕刻、貴社ホームページに「お詫び」を再掲載した
- ⑤ 同日、2023年2月21日の当該番組の録音全体(YouTube)を非公開にした
- ⑥ 2023年3月20日、貴社は当事者との直接面談の場で「お詫び」を述べた  
翌2023年3月21日の当該番組への上念氏の出演を止める要請を受けたが出演させた
- ⑦ 2023年3月23日、当該番組Twitterにて上念氏を当該番組から降板させることを公表した
- ⑧ 2023年3月24日、貴社は当事者たちと再度の面談をおこない「お詫び」をした  
上念氏の当該発言は「ヘイトスピーチにはあたらない」という立場を一貫して表明し続けた

上記対応のうち、②について、番組改編記者発表の場で有貞局長は、朝鮮学校生徒への二次被害

を心配して1日のみでホームページ上の「お詫び」を削除したと述べたそうですが、そうであれば、④の再掲にいたる判断において二次被害を防ぐ措置も同様におこなったというのであれば平仄が合いません。ところが、そのような事実は見当たりません。

また、貴社は、③の対応理由について、「過去にそういう側面があった」「一方で、現在もそのような要素があると受け取られかねない、誤解を招く発言で」「一部配慮が欠ける表現」であったという認識を示し、「この部分に関して」「お詫びをし」たのだと説明しています。それ以外の部分については、「上念氏の当該発言は『子どもたちの人権を守ること、子どもたちを巻き込まないことが重要』という論旨においてなされた」と擁護しています。しかも、③から⑧にいたるまで、何度も繰り返し擁護しています。

しかし、上念氏の発言は、朝鮮学校の子どものことを考えた発言などではありません。以下、当該番組における上念氏の発言を一部抜粋します。

（朝鮮民主主義人民共和国のミサイル実験に対して日本は何ができるかという問いに対し）「全然やることいっぱいありますよ。…今回日米合同訓練やりましたよね。報復でね。プラスね、朝鮮総連ですよ。朝鮮総連が資金源なんで、いろんな意味で。あの、リソース、お金のリソースもそうだし、人もそうだし、物もそこから出てたりする可能性があるんで、朝鮮総連に対する監視を厳しくすると。」「朝鮮学校という学校がまさにこの独裁者ね、金正恩を礼賛する教育をやってて、文化祭の出し物とか、金正恩首領様素晴らしい、みたいなのをやって、それで平壤までそれを見せに行くみたいなことをやってるわけですよ。これ、いいんですか、と。公的助成なんてとんでもない話だし。さらにここのOBがね、日本人の拉致に関わってたりとかするわけですよ、スパイ養成的なところもあったりとか、こういうの、やっぱガチで査察を入れたりとかね。」

上念氏の発言は、現在の朝鮮民主主義人民共和国のミサイル実験に対して日本にできることはあるのかというアナウンサーの質問に答えたものです。その中で、上念氏は、朝鮮学校の教育内容を揶揄し、「公的助成なんてとんでもない」と述べたのです。この文脈で上念氏の発言を聞いたリスナーは、朝鮮学校に公的資金を投じればミサイルの資金源にされると解釈するでしょう。しかし、ここに合理的根拠は全く存在しません。さらに、上念氏は朝鮮学校に対して査察を入れるよう主張しています。学校への査察がミサイル実験に対する報復措置になるとリスナーは解釈するでしょう。後で「民族教育をやるのはいいんだけど」と弁明したところで、朝鮮学校に通う子どもたちのことを考えた発言などでありえないことは明らかです。それどころか、この放送は、外交問題を口実にして、朝鮮学校の教育に政治が介入するようほのめかし、朝鮮学校に通う子どもたちが平穏に民族教育を受ける権利を脅かすものになりました。

2013年10月、「在日特権を許さない市民の会（在特会）」による「朝鮮学校襲撃事件」の民事裁判では、「スパイ養成機関」という発言が「社会的評価たる名誉を著しく損なう不法行為」と認定されています。また、2019年11月29日の刑事裁判で、朝鮮学校が日本人拉致に関与したという内容の発言が、名誉棄損罪に該当するとして有罪判決を言い渡されています。現行法のもとで

は、仮に「ヘイトスピーチ」に該当しても指導原理的な意味しかないのが現状ですが、上念氏の各発言は現行法のもとであっても民事的にも刑事的にも名誉毀損に該当しうる、社会規範を優に逸脱した違法なものであることは厳然たる事実です。貴社が「ヘイトスピーチにはあたらない」と言ったところで、あまりに空虚です。

付言すれば、朝鮮学校はそもそも日本の朝鮮半島への植民地支配の結果として、今日まで存在する学校です。そこでの教育は、現在の日本社会で継続する植民地主義から、在日朝鮮人の子どもたちを「解放」し、堂々とした朝鮮人となり、社会に出ていく人間を養成することを目的としています。このような在日朝鮮人自身、すなわちマイノリティの自主的な営みに対して、その教育内容を揶揄しつつ言及し、「『子どもたちの人権を守ること、子どもたちを巻き込まないことが重要』という論旨においてなされた」とまで述べたことが、在日朝鮮人による在日朝鮮人のための教育に対する余計な介入、端的に言えばマジョリティ側の傲慢なおせっかいです。

上念氏の発言は、リスナーの思考に朝鮮学校に対する偏見をうえつけ、敵対と排除の意識を醸成していきます。こうした発言がまかりとおることで、朝鮮民主主義人民共和国のミサイル実験が報じられるときに、朝鮮学校に通う子どもたちが通学中に暴行を受けるなどのヘイトクライムが発生しています。そうした事件はいま全国各地で頻発しており、昨年10月19日の参議院予算委員会の質疑で岸田文雄首相はこうしたヘイトクライムについて「いかなる社会においても許されない」と発信しました。

ところが、ここまで問題が大きく報じられる今日に至っても、貴社は、生放送中においても、事後の「お詫び」掲載においても、上念氏の発言によってヘイトクライムが誘発されるようなことがあってはならないというコメントも発信していません。ヘイトクライムの誘発を抑止しなければならないという報道姿勢が欠如していると思えません。ヘイトスピーチ解消法の基本理念を理解されていないと思えません。ヘイトクライムの被害にあう可能性のある人びと、今回の場合は朝鮮学校に通う子どもたちの生命と人権をあまりに軽んじています。

これを踏まえ、以下の2つの観点から、貴社に対して強く抗議するとともに要請します。

- I. 朝鮮学校の教育に対する無理解と偏見にもとづく差別言動を放置していることに強く抗議します。
- II. 朝鮮学校の名誉を毀損し、そして、ヘイトクライムを誘発しかねない極めて危険なメッセージを是認していることに強く抗議します。

Iについては、上念氏の発言がヘイトスピーチであったことを認め、貴社の「お詫び」の内容とMBSラジオ局としての見識を再検討し、社としての謝意を発信しなすことを求めます。上念氏は当該番組から降板されましたが、自身の動画チャンネルやSNSの投稿、さらには他社の番組を使い、朝鮮学校の名誉を棄損しつづけています。事の発端が貴社の本件放送にあることを重く受け止め、再発防止策を図ってください。

IIについては、本件放送によってヘイトクライムが誘発されるようなことがあってはならないと

いう貴社の認識を一刻も早く発信してください。本件放送のように差別をあおる発言が放送されることで、在日朝鮮人などのマイノリティーに対する差別犯罪を誘発しては絶対にいけません。

わたしたちは、上念氏の降板で「幕引き」とは全く考えていません。在日朝鮮人を標的としたヘイトクライムは近年頻発の傾向にあります。それは、2009年の京都朝鮮学校襲撃事件や2021年の名古屋民団・韓国学園放火、同じ犯人による同年のウトロ放火事件などから明らかです。ましてや、本件が公共性が非常に高いラジオ放送で行われたこと、近年のインターネット時代において、その放送をいつでもどこでも聞けることにも鑑みて、本件がどれほど在日朝鮮人や朝鮮学校関係者の人権を脅かし、日常を危険にさらしているのか、貴社は認識し、その責任を痛感すべきです。

その上で、本件の上念氏発言をヘイトスピーチであると認め、それを擁護しつづけていることについて、心からの反省と謝意を社会に対して公表するよう求めます。

以上

2023年4月1日

MBS ラジオでの上念氏の発言を許さない！緊急オンライン集会 参加者一同

朝鮮高級学校無償化を求める連絡会・大阪  
朝鮮学校と民族教育の発展をめざす会・京滋（こっぽんおり）  
民族教育の未来をともにつくるネットワーク愛知・ととりの会  
朝鮮学校「無償化」排除に反対する連絡会  
ハッキョ支援ネットワーク・なら  
岐阜朝鮮初中級学校の子どもたちを支援するポラムの会  
千葉朝鮮学校を支える県民ネットワーク  
外国人学校・民族学校の制度的保障を実現するネットワーク埼玉  
四国朝鮮学校の子どもたちの教育への権利実現・市民基金  
日朝友好三重県民会議

連絡先 spotmediahate@gmail.com